

2012. 11. 02 発行

みなさん、こんにちは。SSH です。

今日は、ふだん何気なく見ているものの中にも知らないことが沢山あります・・・というメッセージを伝えたいと思います。テーマは、

Let' s フィールドワーク！！

実は、10/18 木曜日スカラールの授業が急遽変更となり、それでは出かけようということで、

SSH 初のフィールドワーク
ちょうど、「災害と防災」
うテーマであったので、
講師役をお願いして、地
りました。お天気はあい
でも、ふだん見ている
のだと改めて気づかさ
うのを「目から鱗」って



一クに行ってきました。
をサイエンスしようとい
みのるん先生（地学）に
元の地層や地質を見て回
にくの「雨」・・・。
のだが、何も知らなかつ
れることばかり。こうい
言うのでしょうね。

まずは、1枚目の写真を見て下さい。
どうですか？どこかで見た覚えはあり
ませんか。穂坂地区の生徒やサッカー
部の生徒なんかは、この前をよく通過
しているはず。でも、何気なく見ている
だけでは、中々気が付かないかもで
す・・・。

正解は、穂坂橋の東側の露頭です。
きれいな不整合面が見ますね。Bの地
層の上に、「ある出来事」があって、地
層Aが乗ったということがわかります。



その「ある出来事」というのが、今から20万年前の八ヶ岳の大噴火です。20万年前といえ
ば、ヒト *Homo sapiens* の共通の祖先がアフリカ大陸に誕生した頃です。まだ日本列島には、
多分ヒトという動物は、一匹も生息していませんでした。それで、みのるん先生によれば、地
層Bは今から600万年前、茅ヶ岳の噴火で流れ着いた溶岩「黒富士火砕流」。その上に八ヶ岳
から流れ着いたA「蕪崎岩砕流」が乗り上げたということです。

この時の噴火は、相当な規模だったようです。八ヶ岳の古阿弥陀が岳の噴火により流れ出し
た「岩砕流（がんさいりゅう）」（大きな岩が溶岩などとともに流れていくこと）は、現在の市
川三郷町まで、約50kmも流れたそうです。その厚さは、厚いところでは200mもの高さにな
ったとか。地球という天体のスケールの大きな出来事に圧倒されますね。

それで・・・、あることに、気が付いてくれましたか？

そうなんです。八ヶ岳からのやって来た膨大な岩砕流が冷えて固まったものこそ、われらが

七里が岩 Shichirigaiwa

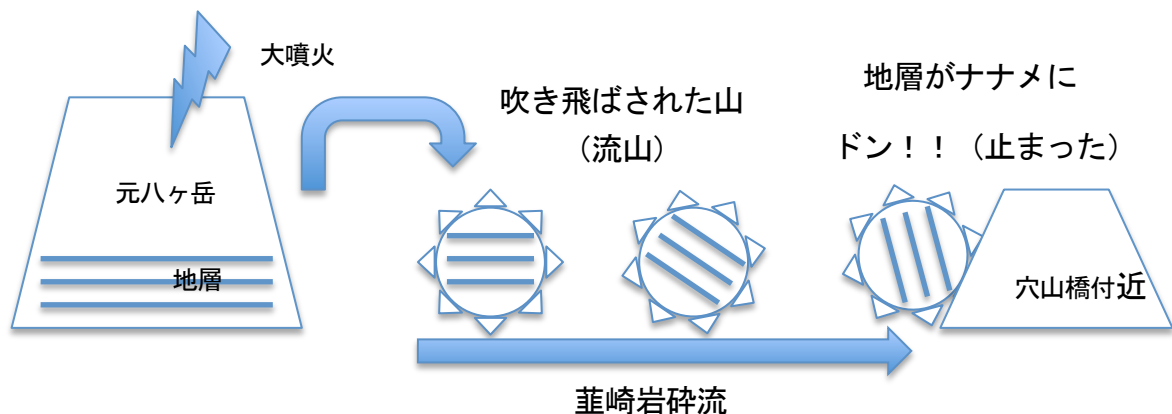
なのだそうです。う〜む。全然知りませんでした。そうなのか……。七里というくらいなので、 $4 \times 7 = 28\text{km}$ はあると思いますが、「台上」と地元から呼ばれている「七里が岩」の起源を知ることができました。(^^)

フィールドワークは、さらに西へ……。今度は武川町に近い穴山橋から、土手を歩いて、七里が岩の側面を観察しました。それが右の写真。何か気が付きませんか。



そうです。岩に地層が見られますが全部ナナメです。どうしてでしょうか。実はこれも韮崎岩砕流が原因だそうです。ここに見える固まりは、大噴火の時に吹き飛ばされた山の破片……「流山（ながれやま）」と呼ばれているもの。地層がナナメになっ

ているということは、ゴロゴロころがって来て、回転してある角度で停止したということです（下の解説図参考にしてください）。山の大きな破片がゴロゴロ転がるのが想像できない自分ですが、言われてみれば納得ですね。



この流山は北杜市や韮崎市の至る所で観察できました。例えば、穴山駅周辺はいくつもの丘のようにデコボコしていますが、そのほとんど全部が「流山」だそうです。

いきものを語る自分も、折角フィールドに来たのだから、何か話せないかと、次の2つの現象について解説しました。

- ①溶岩台地からどうやって森林が形成されるのか
(この「遷移」という過程には、1000年近くかかること)
- ②帰化植物セイタカアワダチソウの強さの秘密
(アレロパシーといって、根から分泌物質をまき散らし。周りの植物の生長を抑える)



今回のフィールドワークで思った事。それは「何気なく見ているもの」を疑って見ること。「知っているようで実は知らない」そして「知ることは楽しい」ということでした。